文部科学省　人権教育推進指定【初年次】
青少年赤十字　防災教育推進指定【2年次】

平成 30 年度研究推進について

安芸太田町立筒賀小学校

学校教育目標　笑顔生み出す児童の育成　～感じる・考える・実行する～

研究主題

いのちを守り心を育てる防災教育の推進

～地域と協働する協調的な学びを通して～

1　研究主題について

(1) 今日的課題から

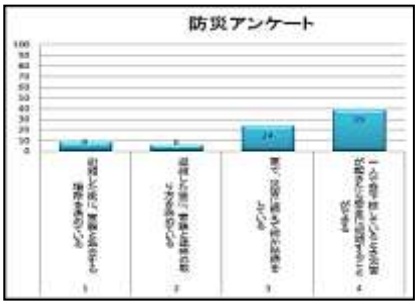
平成２３年３月に発生した東北地方太平洋沖地震及びそれに伴う津波によって引き起こされた東日本大震災では，甚大な被害が発生した。学校も例外ではなく，多くの児童生徒や教職員が犠牲となった。本県においても，平成 26 年８月の広島市土砂災害により，尊い命が犠牲となっている。改めて自然の猛威と命を守ることの重要性について考えさせられた。

本校が位置する筒賀地域は，中国山地西部の豊かな自然と景観に恵まれた山あいにある。しかし周辺には市間山，天上山など１０００ｍ級の山々が林立し，急峻な地形を構成しているため，大雨による土砂災害や河川の氾濫が発生した場合，深刻な被害につながる可能性が考えられる。この危険性は安芸太田町作成のハザードマップにも示されている。また，平成 28 年７月２日の中国新聞に「M6.8 以上 中国地方で 50%」という記事が掲載され，直下型地震発生の危険性を示している。

すなわち筒賀地域は，いつ何時，土砂災害や直下型地震などの災害が発生してもおかしくない状況にあり，本校児童はもとより教職員，保護者，地域住民にいたるまで，命を守り，つないでいくための，幅広い防災意識の涵養が重要であると言える。

(2) 児童の実態から

本校は全校児童数 36 名，教職員数９名の極小規模校である。昨年の標準学力テストの結果を見ると，多くの学年で全国平均を上回るかほぼ同程度であり，良好な状況である。しかし，個別に見ると基礎計算や漢字の定着の他に，長文問題や資料の読み取り，考え方を問われるような活用的問題に課題のある児童が見られる。その背景として，指示されたことには素直に，まじめに取り組むことができる一方，学習に対して見通しが持ちにくく，自ら主体的に考え，取り組もうとする姿勢に乏しいことが挙げられる。学習活動に対して受け身の姿勢であることが課題解決に対する消極性を生み，児童にとって多少難易度の高い問題に対峙した時の諦めにつながっているとも言える。さらに昨年度防災アンケートを行った結果，児童の防災意識は高まりつつあるものの，家庭や地域における防災意識は低いという結果が得られた。



平成 29 年８月現在

このような実態から，児童自らが日常的課題に鋭く気づき，深く探究し，解決しようとする力を身に付けること，また，自他の命に対する豊かな見識を持ち，共に生き抜く力を身に付けることが必要であると考える。

２　主題のとらえ

(1)　「いのちを守る」「協調的な学び」とは

児童が災害発生時等の命の危機が迫った状況において，自他の命を守るために必要な，具体的行動のもとになる知識を正しく身に付けることを目指している。これは主として教科指導と特別活動の２つの側面からのアプローチを行う。教科指導では主体的に学ぶ力を高めるために各教科における学習内容と防災とを関係付けて考える思考を生む。そしてより実感を伴う学びを実現し，防災活動への実践意欲を持たせていく。特別活動では運動会や学習発表会などの学校行事の中に防災の視点を取り入れ，児童が学習したことを実践したり発信したりできる場面を設定する。また，避難訓練や防災教室の充実を図り，災害種に応じた具体的な避難の仕方を知ることで，命の守り方を定着させていく。これらの教育を進めていく際には家庭や地域の関係諸機関・諸団体の理解や協力を得ながら，協調的に進めていくことが大切であると考える。

(2)　「心を育てる」とは

児童が「いのち」の大切さを実感し，自他の命を守りつなぐために自分にできることを主体的に考え，行動する姿を目指している。人権教育を進める上でも，生命尊重の意識を高めることは重要である。命の大切さを実感させるためには，地域の自然や社会，人やものと豊かに関わる体験活動を通して，児童自身が自分を価値ある存在と認め，自分を大切に思う自尊感情を持てるようにしなければならない。自尊感情を高めることによって感性が活性化し，生き生きとした感動が生み出される。そして，心の中に生まれた感動や思いを，周りの人と分かち合い共有することで，他者の存在に思いを馳せたり共感したりする想像力が養われ，限りある「いのち」を生きていることの素晴らしさを感じることができるようになると考える。

(3)　「地域と協働する」「防災教育の推進」とは

防災教育の視点
①「知識・思考・判断」
②「危険予測・行動」
③「社会への貢献」

「防災教育」とは様々な危険から児童の安全を確保するために行われる安全教育の一部をなすものであり，学校教育全体を通して行われるものである。防災教育の視点は，「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」（文部科学省，2010）に示された安全教育の目標に準じて，左記の３つにまとめられる。この３つの視点に基づいて防災教育年間計画を作成し，計画的・組織的に推進することを意味している。また，地域の防災拠点として，学習したことを発信する機会を意図的に設定し，家庭や地域の防災意識を高める。児童発の主体的な防災活動が，家庭や地域の防災教育力を向上させるとともに，将来地域を担うべき児童の，災害に適切に対応する能力の向上及び防災への自立を促すものと考える。

これをもとに，めざす子ども像を以下のように設定した。

めざす子ども像

○**【感じる子ども】**自分自身の安全だけでなく，身の回りの人々のことを思いやり，家族や身近な人々の安全にも気配りができる子ども**(豊かな感性)**

○**【考える子ども】**自然災害や防災に関する必要な知識を身に付け，その知識に基づいた適切な判断ができる子ども**(創造的思考力)**

○**【実行する子ども】**災害種に応じて起こりうる危険を予測し，命を守るために周囲の人々と協働して適切に行動することができる子ども**(確かな実践力)**

また，研究仮説は以下の通りである。

研究仮説

○【感じる】人権教育の視点を持って地域の自然や社会，人やものと豊かに関わる体験活動を取り入れた学習を工夫すれば，自他を尊重し，「いのち」の大切さを実感する児童を育成できるであろう。

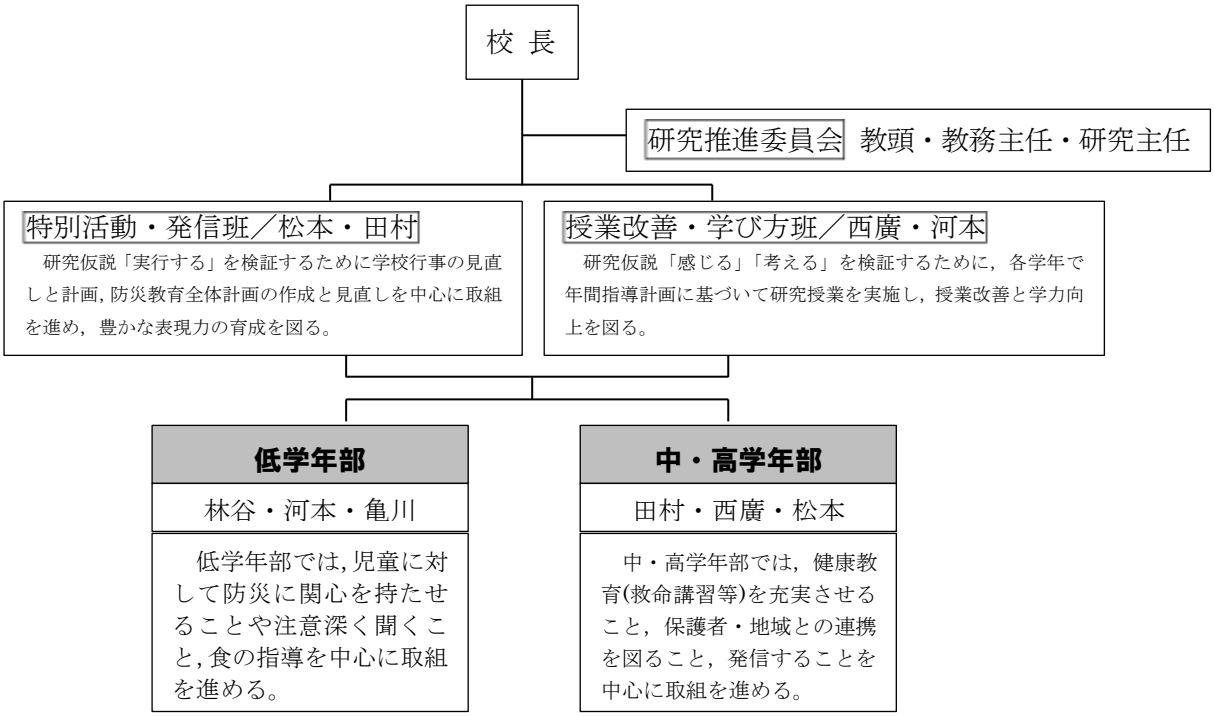
○【考える】各教科の内容と，「いのち」の大切さや防災とを関係付けて問いを持たせ，考えさせる指導の在り方を工夫すれば，自然災害や防災に関する正しい知識に基づいて適切に判断する児童を育成することができるであろう。

○【実行する】学校行事の中に防災教育の視点を取り入れ，学習したことを発信する機会を意図的に設定すれば，地域防災に資する児童の育成ができるであろう。

3　検証の視点

	視　点	具体的な検証の手立て
【感じる】	○児童が地域の自然や社会，人やものと豊かに関わる体験活動を取り入れたか。	・単元構成，単元開発の工夫 ・クロスカリキュラムの工夫 ・地域連携の工夫
【考える】	○児童が主体的に問いを持ち，自分の力で答えを見つけることができるような授業展開を工夫したか。	・効果的な「協調学習」の位置づけ ・自分で「気づかせる」仕掛け ・意欲的に「考えさせる」仕掛け
【実行する】	○言語環境を整え，学習したことを主体的に家庭や地域に発信できる場の設定を工夫したか。	・特別活動（学校行事）の工夫 ・辞書引き学習の継続・定着 ・音読指導，発表場面の工夫

4　研究推進組織体制



５　研究推進構想図

学校教育目標　笑顔生み出す児童の育成　～感じる・考える・実行する～
研究主題
いのちを守り心を育てる防災教育の推進
～地域と協働する協調的な学びを通して～
めざす子ども像
感じる
考える
実行する
自分自身の安全だけでなく，身の回りの人々のことを思いやり，家族や身近な人々の安全にも気配りができる子ども
自然災害や防災に関する必要な知識を身に付け，その知識に基づいた適切な判断ができる子ども
災害種に応じて起こりうる危険を予測し，命を守るために周囲の人々と協働して適切に行動することができる子ども
豊かな感性
創造的思考力
確かな実践力
美しい命
ふしぎな命
つながり合う命
支え合う命
一つの命
人権教育
道　徳
地　域　社　会　へ　の　発　信
主　体　的　な　課　題　解　決
豊　か　な　体　験　活　動
龍頭学習【総合的な学習の時間・生活科】
特別活動を中心とした授業づくり
各　教　科
③社会への貢献
②危険予測・行動
①知識・思考・判断
防災教育
青少年赤十字
緑の少年団
食農教育
学級づくり
健康教育
地域教育
家庭教育